

真砂中央図書館の現状の課題

項目		現状の課題
1 老朽化設備の整備	空調設備の整備	冷暖房機器の故障のため、H24年に中古大型冷暖房機を急ぎよ設置し対応しているが、限界が近づいている。
	給排水設備の整備	日常的にトイレに故障が起き、使用中止になることも多い。さらにトイレの洋式化の要望もある。
2 資料収集の充実	資料保存のための集密書架の設置	3万7千冊収容の共同書庫があるが、他区の中央館と比べると保存機能が低い。
	高価本・専門書等の収集・保存	分担収集によって分散化されるため、中央館としての蔵書に弱い分野が発生している。
	専門的な新聞・雑誌を含めた幅広い情報の提供	一般的な新聞・雑誌を含め、総タイトル数が不足している。
3 高齢者・障害者サービス	音訳資料のデジタル化対応	日本点字図書館等と連携した資料提供方法の検討が必要である。
	対面朗読室	防音対応の部屋が必要である。
	大型活字本の収集・保存	保存場所が不足している。
4 レファレンスサービス	有料データベースの充実	タイトル数の増と利用者自身が利用できる環境の整備が必要である。
	レファレンスブックの充実	分担収集によりレファレンスブックが分散化しているため即応性に欠ける。
	調査・研究室	調査・研究の専用席はない。
5 施設・設備	ボランティア活動室	専用の部屋がないため、作業時や打合せは空いている場所を使用せざるを得ない。
	地域資料室	大型地図等を閲覧するための専用席はない。
	閲覧環境の整備	備品やレイアウトが古い。
	新聞・雑誌コーナーの整備	備品やレイアウトが古い。
	お話の部屋	適した大きさの部屋が無い場合、地下ホールを区切り使用している。
	YA専用空間の充実	児童コーナーの一部としての整備に留まっている。
6 多文化サービス	他言語で書かれた資料の収集・保存	約800冊の多言語図書があるが不十分である。
	利用案内の提供	未作成である。
	他言語で案内されたホームページ	未整備である。
7 ICT化対応	電子書籍等の導入検討	文化庁等の動きを注視していく必要がある。
	ICタグ導入検討	H24年度、費用対効果の点で見送りになった。